

# 南の風 2019 女子日本代表国際強化試合

## ～ 水戸大会特集号Ⅱ ～

南支部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

女子日本代表のオフェンスを検証します。

アライメントは基本的に5人のオールアウト（トップ、両ウイング、両コーナー）です。

### 《オフェンス》

- ①ペイント部分を広く空けてドライブで進入し、ヘルプが来ればキックアウトしたり、パスランしたプレイヤーがダウンスクリーンに行き、味方をフリーにしたりして攻める。
- ②パスランしたプレイヤーが全力でカットし、クロススクリーンを利用して逆サイドでノーマークになったり、コーナーのプレイヤーがローポストに立ち8クロス（ローポストに立った味方をスクリーナーとして利用する）からマークを外しショットする。
- ③キックアウトしてもシュートできないことを想定して、エクストラパスを受けられるように何重にも外で準備してノーマークシュートが打てるようにする。

考え方としては、誰でもどこからでも3Pシュートが打てるという戦術です。実際観戦して『ストレッチ4』の進化系だと感じました。第1戦では、3Pの確率が18/32（56%）という驚異的な数字をたたき出しました。毎回こうはいかないでしょうが、今後女子日本代表が目指すオフェンスの方向が、観客や全国のファンに分かったと思います。

参考までに、第2戦の3Pシュートのスタッツは12/31（39%）、2Pは14/26（54%）でした。SGの林選手は第2戦も、3Pシュートの確率5/9（56%）という高い数字を残しました。他に、SFの宮澤選手は2/9、PFの谷村選手2/2、SF長岡、PF本橋、SFステファニー選手がそれぞれ1/2という結果でした。

今回、渡嘉敷選手が出場しませんでした。2020年に向けて5人のオールアウトにするか、4アウト1インにするか注目です。

いずれにしても身長や身体の大きさで劣る女子日本代表が得点するためには、ポジションにかかわらず、全選手が3Pシュートを含めたシュートの精度（どんな状態でも）をさらに上げることと、如何にスペースをつかってノーマークになる努力をするかということに尽きます。

ディフェンスの課題についてです。

### 《ディフェンス》

- ①長身者のポストプレイに対して、ボールを持たさないようにする守り方や、ダブルチームに行き簡単にシュートさせないディフェンス。
- ②ポストにボールが入った場合と、ポストマンからのリロケーションパス（外に出すパス）への対応した守り方。またキックアウトのパスにアジャストしたディフェンス。
- ③プレスディフェンスを仕掛ける、時間帯、場所、状況を5人が把握し、ダブルチームからローテーションしてパスカットを狙う精度を上げる。

次号へ続きます。